

愛知大学国際中国学研究センター（ICCS）
「現代中国とアジア世界の人口生態環境問題」研究会

国家イメージと市場利益

—秦淮河管理の内在的動力—

講師 周 曉虹 教授

南京大学社会学部長

研究会紹介：

1950 から 2005 年までの間、南京市の都市河川である秦淮河は4回にわたり大規模な河川整備工事が実施された。前3回は、洪水対策を目標としたものであり、第4回は、汚染処理に取り組み南京市における水系の生態環境の質改善を目指したものだ。

本報告では第4回の河川整備工事を取り上げ、秦淮河の汚染処理は(1)依然として国家また政府が自分のイメージを高めるため、(2)市場集団が利益を実現するため、という二重の目的（力）で推し進められていることを説明する。第4回河川整備は前3回に比べて、国家が経済動員の能力を強めてきたことにより政治動員の潜在力を維持することができた。また、市場は汚染処理に経済的利益が見込めるため、次第に河川管理に参加しはじめている。一方、コミュニティ（社区）などの社会の力は、既存の問題を社会的問題化する面において、徐々に重要になってきている。しかし、都市河川の汚染処理の過程に影響を及ぼすまでには、まだ相当の距離がある。

2006年10月28日（土） 10:00-12:00
愛知大学車道校舎 本館1階第1会議室
（地下鉄桜通線車道下車3分）

* 講演は中国語でおこないます（日本語通訳あり） * 申し込み不要

【主催】愛知大学国際中国学研究センター（ICCS）

【お問合せ先】愛知大学 ICCS 事務室 〒470-0296 愛知県西加茂郡三好町黒笹 370

Tel: 0561-36-5637

Fax: 0561-36-5422